



『荒れたレースの中、2人ドライバーの粘り強い走りで 8 位入賞』



シリーズ名：2023 AUTOBACS SUPER GT シリーズ

大会名：2023 AUTOBACS SUPER GT Rd.6 「SUGO GT300km RACE」

レース距離：1周 3.586km×84周 (301.2km)

9月16日(土) 天候：曇り／路面：ドライ

9月17日(日) 天候：曇り／路面：ドライ

9月16日(土)

公式予選：GT500 クラス 11位：1:10.789

後半戦となる菅生、サクセスウェイト最大での闘いとなる

今大会は、チームの総合力が試される一戦となる。

ここ数年の“菅生の魔物”はチームにも襲いかかり良い

結果がでていない。勝つイメージしかなく、

去年のリベンジを果たしに、菅生に乗り込んできた。

午前中の練習走行では予選 Q1 突破を目標に

セッティングとタイヤの確認を中心に 22 周周回し、

1:12.086 の 15 番手タイムとなった。

コンディションが変わるか中、中々ドライバーの満足いくフィーリングではなかった。





エンジニアを中心に昨年の菅生のデータと持ち込み
セットからアジャストしたセットをドライバーとエンジニアで
ミーティングし、午前中とは大幅な変更をしたセットで
予選を望むことになった。

GT300 予選開始直後に降り出した雨が路面を
あつという間に濡らしたため、予選はウエット宣言と
なった。予選はこのまま雨は止むのか、降り続くのか。
予選開始時の気温・路面温度・湿度は 26 度、
29 度、74%となっていた。

Q1 のアタックドライバーは国本選手。ウエット宣言が
出されているが、雨は既に上がり、路面が乾いて
きたため、各車ドライタイヤでのアタックとなった。

Q1 直後にライバル車がアタックに出て行く中、
19 号車は同じヨコハマタイヤを履く 24 号車と共に
遅めにコースインし、各車 2 度のアタックを行う中、
残り 20 秒からのワンアタックに入る。戻ってきた
19 号車のタイムは Q2 に進めるカットラインよりも
コンマ 2 秒足りず 1:10.789 と暫定 11 位となり、
Q2 へ進出は出来なかった。

Q1 の結果は、23-39-17-24-38-8-37-3 -
(以上 Q2 進出) -14-100-19-36-16-1-64

ウエット宣言が解除された Q2 は、コースレコードが 3 台も更新される激しい争いの中、8 号車がボー
ルポジションを獲得、2 位の 23 号車、3 位の 17 号車までがコースレコード更新となり、以下 39-38-
37-24-3

決勝の天気は曇の予報でドライのレースになる模様。久々の 300km の短期決戦の争いの中、表
彰台の頂点に向けて爆走していきます。皆様の応援、宜しくお願いいたします。





予選コメント

【坂東監督】



『コンディションが難しかったですね。昨年のポールを獲得したタイヤとは違うタイヤを選択しました。ちょっとしたコンディションの変化で国本選手には申し訳なかったです。ただフリー走行から予選までの車のアジャストはエンジニアと2人のドライバーのお陰なので感謝しています。データを分析して決勝で順位を上げられるようにストラテジーをエンジニアと相談します。何が起きるか？わからない菅生ですから諦めない戦いをお見せしたいと思っています。』

【国本選手】



『予選はQ1で落ちてしまいました。フリー走行から歯車がかみ合わず、コンディション的にもすごく難しい状況で予選まで進行しました。ベストなパフォーマンスを出し切れなかったこともありますし、Q2に進みかけた中でそれが叶わずに悔しい予選となりました。ただ、まだ明日がありますし、菅生は毎年荒れたレース展開となりますので、決勝でしっかりと順位を上げて上位でゴールできるように明日も頑張ります。応援よろしくお願いします。』

【阪口選手】



『予選結果11番手でした。フリー走行は雨上がりで路面コンディションが悪い中、そこでのフィーリングや車のチェックを行うことが難しく、難しいフリー走行となりました。そこに対しては去年の実績や今年のデータを振り返ったうえで国本さんがアタックしてくれました。予選ではタイムも大幅に上がりましたしフィーリングもよくなったようなんですけど、それ以上にライバル勢が速くてQ2には進めませんでした。結果は残念ですが、明日には明日の風が吹くとおもって、さらに気を引き締めてポイントを少しでも獲得できるように頑張ります。』



9 月 17 日 (日)

決勝 : GT500 クラス 8 位

黒い雲がサーキットを覆っているスポーツランド SUGO で行われる第 6 戦。久々の 300km レースとなり短期決戦の中、午前中から雨が降ったり止んだりと天候が安定しない中、決勝日が始まった。

12 時から 20 分のウォームアップ走行では、13 周を走り、満タンの状況では上々の 1:13.551 と 2 番手タイムを出した。

スタートドライバーは国本選手。ウェットタイヤがコース上まで置かれたが、履くことはなく、ドライタイヤでのスタートとなる。

宮城県警車両が先導するパレードランが 1 周、フォーメーションラップが 1 周の後、84 周先のゴールを目指し、スタートが切られた。

序盤、レースは大きく順位が変わることなく、スタート時の 11 位を保ったまま周回を重ねていく。

程なく、300 クラスに迫っていくことになるが、菅生のそもそものコース幅が狭く、速度差のある 300 クラスとの混走もあり、追い越しが至難の業である以上、12 周目には 5 位の 39 号車を先頭に 14 位までの車両が数珠つなぎとなってしまう、それは 19 号車も同じで前途との争いが無いまま、大きな順位変動が無いまま、レースが展開されていくことになった。

19 号車は 29 周目に 11 位のまま、早めのピットインをとり、阪口選手にドライバーチェンジし、フルサービスにて暫定 14 位でコース復帰。

その後、各車ピットに入るようになり、37 周目には 19 号車は暫定 12 位となる。

レースは大きく動かないまま中盤を迎えようとした 35 周目のメインストレートで、100 号車と 300 クラス車両が接触、100 号車の大クラッシュにより、即座に SC が入った後、40 周目に赤旗中断となる。

約 1 時間の中断後、レースが再開となり、SC 先導による周回の後、45 周目に SC が外れ、レースが再開となる。

直後、前を走っていた 36 号車、1 号車を 19 号車が





パスして 9 位に上がるものの 52 周目に 1 号車にパスされて 10 位に落ちてしまった。ただ、その後 64 周目に 37 号車をパスし 9 位に上がるものの、72 周目には 36 号車に再びパスされて 10 位になってしまう。赤旗中断後、程なくトップから周回遅れとなってしまったが、前の 36 号車をパスする為、阪口選手は爆走していく。そして、残り 5 周。ペースが落ちた 3 号車をパスして 9 位に上がると、さらに前の 36 号車に食らい付き、背後まで迫るがかわすことは敵わず、9 位でチェッカーを受けることとなりました。決勝終了後の車検により、優勝した 17 号車が失格となったため、順位が各車 1 つ繰り上がり、19 号車は 8 位となりました。

レースは、ポールポジションだった 8 号車が、前半、後続の車を寄せ付けずにトップを独走するも、40 周目の赤旗中断後に各車ギャップがなくなった後半は同一周回だったトップ 3 台の三つ巴の争いとなる中、NSX 同士の争いはのこり 8 周目で 8 号車をパスした 17 号車がトップに躍り出て後続を引き離しチェッカー。2 位争いは最終周までもつれるが順位は変わらず 2 位は 8 号車、3 位は 23 号車。以下 39-1-24-14- 36-19-3-37-64-16 - (以上完走) -100-38 となりました。

※レース後車検により、17 号車に失格裁定が下ったため、順位が全て繰り上げとなります。正式順位は 8-23-39-1-24-14-36-19-3-37-64-16 - (以上完走) -100-38-17 となりました。



決勝コメント

【坂東監督】



『応援してくださったファンの皆様本当にありがとうございました。

今までで一番お客様が来てくださった菅生と感じました。ありがとうございました。

悔しい結果でした。ドライバーにもっと良い車を与える事が出来れば結果は変わったかもしれません。しかしフリー走行から予選そして決勝へセットを変更して良くなってきたので

ドライバー・エンジニアには感謝しかありません。

やはり強いチームとの差はあると感じたレースですが逆に残り 2 戦で 19 号車の良いところを見せれる希望しかないので次戦に向けて頑張っていきます。

次は 27 kg と比較的軽い状況なのでランキング 11 位から A P 後にランキングを上げて最終戦に望みたいと思っています。 スポンサー様、ファンの皆様応援ありがとうございました。』

【国本選手】



『8 位ポイント獲得でしぶといレースをする事ができました。

スタートスティントを担当して厳しい状況でしたが、ポジションを守ることが出来ました。

いつものフィーリングより上向いているし、何よりフリー走行からのアジャストがうまくいき、想像以上のペースでキープすることができました。

サクセスウェイトの影響で一発のスピードが穏やかになってしまいましたが、次戦のオートボリスでは軽くなるので予選からしっかりと上位につけられるよう準備します。』

【阪口選手】



『決勝は正式 8 位となりました。

セカンドスティントを担当しました。車のバランスは最近のレースより良く、ペースを安定させることはできました。ラスト数周までバトルすることができました。ランキング上位陣と競り合うことができ、その中で自分たちが劣っているところが明確になったので次戦以降弱点を克服できるよう頑張ります。』



SUPERGT

<https://supergt.net/pages>

BANDO H

<http://www.bandohracing.com/>